

# 自立性・継続性を目指した立野ダムインフラツアーの取り組みについて

落合 薫平<sup>1</sup>・村上 裕明<sup>1</sup>・梅田 光<sup>1</sup>・田宮 子良<sup>2</sup>

<sup>1</sup>九州地方整備局 立野ダム工事事務所 工務課 (〒861-8019 熊本県熊本市東区下南部1-4-73)

<sup>2</sup>九州地方整備局 筑後川河川事務所 調査課 (〒830-8567 福岡県久留米市高野1丁目2番1号)

立野ダムは熊本県中央部に位置する白川沿川の洪水被害防止を目的に建設中である。白川はその源を熊本県阿蘇郡高森町根子岳に発し、阿蘇カルデラの南の谷を流下し、同じく阿蘇カルデラの北の谷を流れる黒川と立野で合流した後、熊本平野を貫流して有明海に注ぐ一級河川である。立野ダム工事事務所では、より多くの観光客を南阿蘇村に誘引し、地域振興に資することを目的に阿蘇の観光資源と立野ダムを連動させたインフラツアー等を商品化する取り組みをおこなっている。今回、ダム完成後を見据え、地域が主体となってインフラツアーを継続実施できる仕組み作りを目指して取り組んだ内容とその結果について発表する。

**Key Word:** 立野ダム, インフラツアー, 地域振興, 自立性, 継続性, アカウンタビリティ, 業務改善

## 1. はじめに

立野ダムは、熊本県中央部に位置する白川沿川の洪水被害を防ぐことを目的とし、2022年度の完成を目指している。白川は阿蘇カルデラの南の谷を流下し、同じく阿蘇カルデラの北の谷を流れる黒川と阿蘇カルデラの唯一の切れ目である立野峡谷（立野ダム建設予定地）で合流した後、熊本平野を貫流して有明海に注ぐ一級河川である。立野峡谷は多くの観光客が訪れる熊本県南阿蘇村内に位置し、阿蘇への入口となっている。また、阿蘇ユネスコジオパークにおけるジオサイトの1つでもあり、阿蘇開拓の神「健甕龍命（たけいわたつのみこと）」の蹴破り伝説と関連が今も残る場所である（図-1）。さらに、周辺は国の天然記念物である北向谷原始林や2016年熊本地震を

引き起こした布田川断層、噴出年代が異なる溶岩、溶岩が冷却してできた柱状節理等多くの豊富な自然環境、観光資源が存在している。

また、立野ダムは洪水時のみに貯留する日本最大級の流水型ダムである。その特徴として、常時水を貯めないことから、ダムの管理用道路を利用し、ダム見学に加えてこれまで間近で観察できなかった柱状節理等が観察できる貴重な場所となる（図-2）。

立野ダム工事事務所では地域と連携し、阿蘇の観光資源と立野ダムを連動させたインフラツアーを商品化することで、より多くの観光客を南阿蘇に誘引し、地域振興に資する事を目的に「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会（以下、推進協議会）を2018年4月25日に設立した（表-1）。これまでの取り組みとして、工事中のダム現場を間近で観察すること



図-1 立野ダムと周辺の観光資源の位置図



表-1 「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会委員



図-2 立野ダムの完成イメージパース

「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会 委員構成	「阿蘇・立野峡谷」ツーリズム推進協議会 企画部会 会員構成
南阿蘇村長	立野地域復興まちづくり協議会 会長
阿蘇ジオパーク推進協議会 事務局長	阿蘇ジオパークガイド協会 会長
公益財団法人 阿蘇火山博物館 館長	一般社団法人 みなみあそ村観光協会 事務局長
国土交通省 立野ダム工事事務所 所長	一般社団法人 みなみあそ観光局 戦略統括マネージャー
南阿蘇村議会 立野ダム対策特別委員会 委員長	一般社団法人 みなみあそ観光局 事業統括マネージャー
一般社団法人 みなみあそ村観光協会 代表理事	株式会社 あそ望の郷みなみあそ 代表取締役社長
一般社団法人 みなみあそ観光局 代表理事	東急不動産(株)阿蘇事務所 所長
阿蘇ジオパークガイド協会 会長	ニコニコ屋 代表
南阿蘇鉄道株式会社 総務課長	南阿蘇鉄道株式会社 総務課長
株式会社 あそ望の郷みなみあそ 代表取締役社長	熊本県阿蘇地域振興局総務振興課 地域振興班
	国土交通省 立野ダム工事事務所 副所長
	国土交通省 熊本復興事務所 副所長
	南阿蘇村建設課 課長
	南阿蘇村産業観光課 課長

ができる「たてのてらす」の設置、立野ダム建設の状況と立野橋梁や阿蘇北向谷原始林を背景に、今しか撮れない自分だけのダムカードを撮影できる「MYダムカードフォトフレーム」の設置、周辺飲食店での「立野ダムカレー」の販売、跡見学園女子大学と株式会社JALパック等との産官学連携によりツアーを企画販売した南阿蘇観光未来プロジェクト、職員の説明による民間インフラツアーの実施があげられる。本論文では、更にダム完成後を見据え、地域が主体となってインフラツアーを継続実施するための仕組み作りを目指して2019年度以降取り組んだ内容を報告する。

## 2. 現状と課題

阿蘇地域に属する南阿蘇村は2016年熊本地震による被害が特に集中した地域である。地震の影響により交通の要であった南阿蘇鉄道の一部全線運休や、南阿蘇村に通じる阿蘇大橋の崩落など甚大な被害を受けたことから主要産業である観光業への影響が大きい。阿蘇地域における観光客数は地震前と地震後では前年度比約68%の減少で過去10年間で最低であった。また現在も地震から4年以上経過し、震災復興へ大きく動いているが、一度離れてしまった観光客を取り戻してはいないとの声が地域から聞かれる。南阿蘇村にとって地域活性化のために観光客を取り戻すことが課題となっていた。また、阿蘇の自然環境は、その景観が観光資源となることに加え、特に立野峡谷や溶岩については阿蘇カルデラの成り立ちを知ることができる地質学習材料として非常に有効であるが、その魅力を十分に活用しきれていない。

一方、立野ダム工事事務所は、本格化している工事現場を有効活用し、地域固有の観光資源として確立、地域振興に資するとともにより多くの人に立野

ダムを知ってもらう機会を設けたいと考えていた。そこで、2018年より開始した旅行会社の立野ダムインフラツアーは現場対応や説明をすべて事務所職員が担当していた。しかし、ダム完成後は担当職員の確保等ツアーの継続性に不確実性があることが課題であった。そのため、ダム完成後の地域振興を見据え、多くの人々がダムを訪れるダム本体工事中に経済面も含めて地域が自らインフラツアーを継続実施するための仕組み作りの検討を行った。

## 3. 取り組み

### (1) 地域が自らインフラツアーを継続実施するための仕組み作り

現在、立野ダムでは、大規模基礎掘削工事を24時間施工中であり、2020年秋頃からは堤体打設が開始され見所が増すため、更なるツアー商品化及びより魅力的なツアーにするために観光業のプロからの率直な意見を期待し、全国の旅行代理店で構成される（一社）日本旅行業協会（JATA）九州事務局を立野ダムインフラツアー視察に誘致した。

さらに、2019年6月の推進協議会でJATA立野ダムインフラツアー視察を目標に、視察ルートの設定、職員に替わり現場説明をおこなうダムガイド育成と運用体制の構築、事業広報とインフラツアー拠点となる広報室の設置を提案し戦略的に取り組んだ（図-3）。

#### a) 視察ルートへの検討

立野ダムインフラツアーの魅力を最大限引き出すためには、阿蘇の観光資源であるジオとダムを活かしたルートを設定する必要がある。ジオとは、地球・大地を意味し、阿蘇自然環境を指す。推進協議会の構成団体である南阿蘇村産業観光課や2019年に設立された観光商品の企画や販売等を目的とした組織である（一社）みなみあそ観光局と連携し、立野ダ

項目	主担当	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
イベント																			
広報施設整備 (立野小改修)	立野ダム																		
ガイド育成	村・観光局・立野ダム																		
視察箇所	村・観光局・立野ダム																		

図-3 推進協議会で提案した取り組みとスケジュール

ムと南阿蘇の魅力を組み合わせたツアー行程を作成した(表-2)。

### b) ダムガイド育成と運用体制の構築

地元によるダムガイド体制構築にあたり、ガイドの現状と課題を把握するため、既存のガイド団体の方々にヒヤリング調査を実施した。その結果、現地で目に見える全てのものを説明することが必要とされること、熊本地震後にはボランティアガイドの依頼もあり、休憩所がないことや全て自己負担で対応することが負担となり継続が厳しい等の課題が明らかとなった。

ダムガイドを担っていただく一期生として南阿蘇在住の阿蘇ジオパークガイドの方々を対象に募集を行った。阿蘇ジオパークガイドとは、阿蘇を訪れる人々にジオパークの魅力を伝えるために専門的な知識を学び、認定を受けた案内人のことである。日頃よりガイドを仕事としていることから、即戦力として対応できる。また、立野峡谷を含む阿蘇のジオサイトに精通していることから、ジオとインフラを組み合わせたツアーでも活躍が期待できる。

ヒヤリング調査の結果を踏まえ、インフラツアーや治水、ダムの目的や工事の流れなどを学ぶ講習会、現地研修を開催した。講習会では、実際に現場に行った際、目に映る重機や施設、鉄道橋等をガイドできる資料によりガイド育成講習を行い、南阿蘇村長が講習会及び現地研修の修了者を阿蘇立野峡谷(立野ダム)ガイド(以下、ダムガイド)として認定した(図-4)。

さらにみなみあそ観光局にて旅行会社にガイド手配等の運用体制やガイド料金が決定された。地域が

表-2 ツアー視察ルート

	施設名	主な内容	説明
インフラツーリズム	① あそ立野ダム広報室	・ジオサイト説明 ・ダム事業説明 ・ダムカード配布	広報コンシェルジュ
	② 立野ダム展望所	・ダムサイト、立野橋りょうを一望 ・My「ダムカード」フォトフレームで記念撮影	阿蘇立野峡谷(立野ダム)ガイド
	③ たでのでらす	・ダム工事現場を一望	阿蘇立野峡谷(立野ダム)ガイド
観光	④ 道の駅「あそ望の郷くぎの」(昼食)	・「南阿蘇 そば道場」そば打ち体験&食事 ・お土産購入	
	⑤ 道の駅「あそ望の郷くぎの」	・道の駅から阿蘇の大パノラマ「阿蘇五岳」を一望	阿蘇立野峡谷(立野ダム)ガイド
ジオツーリズム	⑥ 白川氷源	・屋外徒歩見学	阿蘇立野峡谷(立野ダム)ガイド
	⑦ 南阿蘇村役場	・意見交換会	
	天神日銀前着	解散	

自らインフラツアーを実施できる仕組みが構築できた(図-5)。また、ダム工事現場は変化し続けるため四半期に一度の定期的なダムガイド研修会を提案し決定された。

### c) あそ立野ダム広報室の開設

ダム事業の理解促進やインフラツアーによる地域振興に資するため、立野ダム建設工事現場付近にある旧立野小学校の一部を改修し、「あそ立野ダム広報室」を2019年9月18日にオープンした。立野ダムに関するパネルや阿蘇の成り立ちの説明パネル、ダム周辺の立体模型、ダムカード配布、工事現場を様々な角度から見られるVRゴーグル等を設置した。また、地元の広報コンシェルジュが常駐し、来客者に説明できる体制を構築した。推進協議会委員である阿蘇火山博物館や阿蘇ジオガイドの方々のアドバイスと協力により、阿蘇カルデラの成り立ちと立野峡谷や白川形成、熊本市が生み出されるまでの関係を神話を引用しながらまとめたパネルを作成し、ジオの視点から立野ダムを説明する配置にした。

さらに、多目的スペースをダムガイドの方々がミーティングや休憩等で使うことができるようにし、現地説明用のパネルや立体地図等の貸し出し体制を整えた。

### d) JATA視察

2019年10月9日にJATA立野ダムインフラツアー見学会を実施し、旅行会社9社計21名に参加いただいた。



図-4 吉良村長からの認定書交付

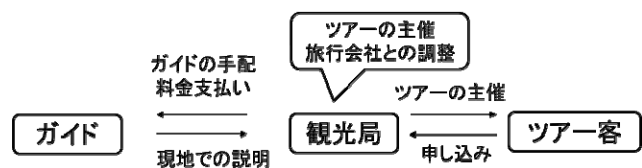


図-5 観光局とガイドの関係性

当日の立野ダム現場での説明はダムガイドが行い、立野地域の見所であるジオとインフラを合わせたガイドがなされた(図-6)。ツアー後、村長も含め参加者全員で意見交換会を実施した。さらに、JATAから率直な感想を聞き、今後のツアーに活かすためにアンケート調査を実施した。

アンケート結果の一部を図-7及び図-8に示す。図-7は肯定的な意見を合わせると88%になる。③あまりよくなかったが12%になった理由として、ダンプの音等で声が聞こえにくい、と言った意見があった。また、図-8は③今のレベルで丁度よいと答えた人が52%を占め、より詳しい説明を求める割合とより簡単な説明を求める割合が5%ほどしか変わらない結果となった。旅行会社の要望を事前確認し対応していく必要がある。アンケート結果はダムガイド定期研修で共有し、改善策を議論した。

#### e) JATA視察後の効果

JATA視察の結果として、現時点では2020年8月に1社のツアー販売が決定している。また、当日の様子が地元テレビ2社で取り上げられ、立野ダムインフラツアーの広報にも繋がった(図-9)。さらに、地元メディアでダムに積極的に賛成ではないが、下流域の安全を守るために建設を受け入れようとしており、それを反対派の人にも説明できるようにしたいとのダムガイドの方のコメントがあった。こうしたダムに

対し慎重でありながら、南阿蘇村復興のために協働して下さる方々に応えられるよう、ガイドの方々の興味や疑問を踏まえ、定期研修会に取り組んでいる。

ジオガイドを兼任されるダムガイドは地質が好きな方が多く、ダム基礎岩盤や強度に対する関心を多く聞いていたため、2019年12月の定期研修会はダム基礎岩盤の調査横坑内で実施した。調査横坑は閉塞されるため、柱状節理を内部から観察できるのは今だけであり、今しかできない経験を提供することができた。また、ダムガイドの方々に岩検ハンマーで岩盤を叩いて頂き、火花が散る状況を体験して頂いた。

さらに、ダムガイドの方々との連携の波及効果として、立野ダム工事現場で第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会のポストジオツアーや霧島ジオパーク推進連絡協議会の現地研修会が開催され、ダム事業を説明させて頂く機会を得ることができた。

#### (2) インフラツアー及びダム関連商品開発

##### a) ナイトツアーの企画販売

立野ダムは夜間も工事を行っている。さらに、立野ダム近辺では、熊本復興事務所が新阿蘇大橋の工事も行っている。工事現場が夜間にライトアップされている様子がSNS等で見栄える写真に着目し、推進協議会でナイトツアーを提案した。立野ダムや新阿蘇大橋等の復興に携わる方々の熱い思いや技術力



図-6 JATA 立野ダムインフラツアー見学会

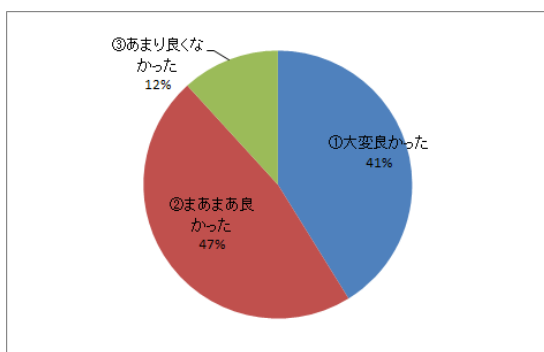


図-7 JATA 立野ダムインフラツアー見学会の感想

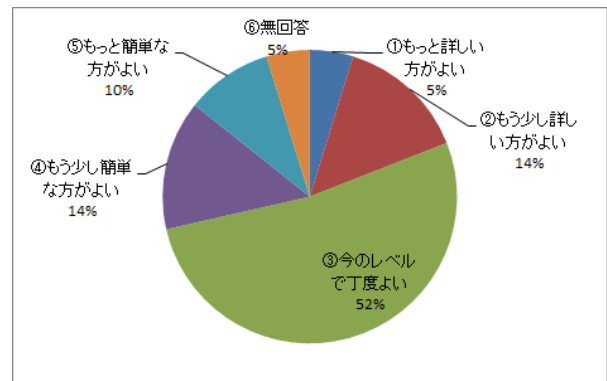


図-8 ダムガイドの説明についての感想



図-9 JATA 視察の地元テレビ報道  
©熊本県民テレビ

を知ってもらい、また南阿蘇への宿泊を促すことを目的にJATA視察での経験を活かしナイトツアーを企画し、(一社)みなみあそ観光局が販売した(図-10)。

ツアー販売開始直前に宣伝効果を期待し、マスコミに参加を呼びかけ、モニターツアーを実施した。後日、参加者の感想や企画の意図、開催日程などが放映され、申し込みHPに多くのアクセスがあった。このナイトツアーは(一社)みなみあそ観光局が販売した初の地域主導のインフラツアーである。本ツアーの立野ダム工事現場における説明は、ダムガイドの方が行った。夕食は推進協議会の構成員である阿蘇東急ゴルフクラブでダムカレーが提供された(表-3)。本ツアーは2019年10月と11月にそれぞれ1回ずつ催行され、遠くは東京からの参加があった。ツアー後のアンケートからは建設現場の観光資源としての高い



図-10 ナイトツアーのチラシ

表-3 ナイトツアー行程表

①	施設名	主な内容	説明
①	阿蘇東急ゴルフクラブ	・受付 ・立野渓谷紹介、ダム概要説明	阿蘇立野峡谷 (立野ダム)ガイド
②	阿蘇東急ゴルフクラブ	・夕食(ダムカレー)	阿蘇東急ゴルフクラブ
③	あそ立野ダム広報室	・ダムカード配布 ・展示物説明	阿蘇立野峡谷 (立野ダム)ガイド
④	立野ダム展望所	・ダムサイト、立野橋梁を一望	阿蘇立野峡谷 (立野ダム)ガイド
⑤	たてのてらす	・ダム工事現場を一望	阿蘇立野峡谷 (立野ダム)ガイド
⑥	長陽大橋橋木側展望所	・新阿蘇大橋見学(俯瞰)	復興事務所職員
⑦	阿蘇東急ゴルフクラブ	・アンケート回収 ・解散	みなみあそ観光局

ポテンシャルを確認することが出来た(図-11)。また、従来は職員3名体制で説明等の現場対応をしていたが、広報室の施設と現場内の先導のみの1名での対応となり、働き方改革にも波及効果があった。後日、ツアー参加者による立野ダムの必要性や工事関係者への感謝についての投稿が地元新聞に掲載され、事務所にもダム事業に対する感謝の電話を頂く等事業理解の効果もあった。地元の方によるダムの説明や昼夜を問わず働く現場の方々の姿がツアー参加者の心に響いた結果と考える。

### b) 新型コロナウイルスの影響

JATA視察や旅行会社への売り込みの結果として、旅行会社がダムガイドによる立野ダムインフラツアーをルートに含んだ2020年春期のツアーを販売した。南阿蘇鉄道(株)より、2020年4月5日催行の復興ツアーが販売され、クラブツーリズム(株)より、2020年4月1日から5日連続催行のツアーが販売されたが、新型コロナウイルスの影響を考慮し中止となった。熊本地震後、新型コロナウイルスで更に観光への影響を受けた。そのような状況ではあるが、10月に大手旅行会社の新たなツアーが決定し、立野ダムインフラツアーのポテンシャルの高さを改めて確認することができた。ツアー再開に向け、ツアー中に各人の間隔をできるだけ空けること、入場人数を制限すること等、安全な受け入れ体制を検討中である。

また、四半期毎のダムガイド定期研修実施が難しくなったが、ツアー再開に向け準備をしていく必要がある。そこで、自宅で学習ができるように2020年5月時点までの工事の進捗状況などを資料にし、ダムガイドメール研修を実施した。事前に質問などもメールで募り、研修資料に取り入れた。その後、緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いたため、感染防止対策を十分おこなった上で、ダムガイド現場研修を実施した。今回の現

ツアー全体についてご満足いただけましたか？

Answered: 20 Skipped: 0

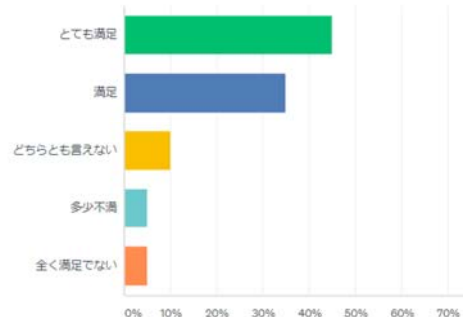


図-11 ナイトツアーアンケートの一部

場研修には、ダムガイドの方々とダムガイドに感心を持つ2名のジオガイドの方が参加され、ダムガイドの担い手拡大の兆しも確認できた。

#### c) ダム関連商品開発

推進協議会の取り組みとして、ダム関連商品の開発にも取り組んだ。(一社)みなみあそ観光局等と企画会議を行い、立野ダム工事事務所は他ダムの商品の紹介や新製品のアイデアだし、図面等を素材として活用してもらうための使用ルール化等を行った。また、商品のデザイン選定のため事務所非常勤職員のアンケート結果や意見を提供する等の支援を実施した。2019年度は(一社)みなみあそ観光局から、立野ダムの設計図が胸と背中にデザインされた『立野ダム T シャツ』(図-12)、立野ダムのオリジナルロゴや完成イメージなど計6種類がデザインされた『立野ダム缶バッジ』(図-13)が商品化され販売中である。2020年度には、新たなダム関連商品として、立野ダムトートバックや手ぬぐいを販売予定である。

#### (3) 更なる地域活性化支援

今年度秋頃に本体打設が始まるダム工事現場を更に活かそうと推進協議会でダム基礎岩盤清掃ツアーを企画中である。

またダム工事完了後、南阿蘇村が地域振興のため、右岸仮設備ヤードに物販施設、キャンプ場、宿泊施設、駅等を整備予定である。これを見据え、ダム工

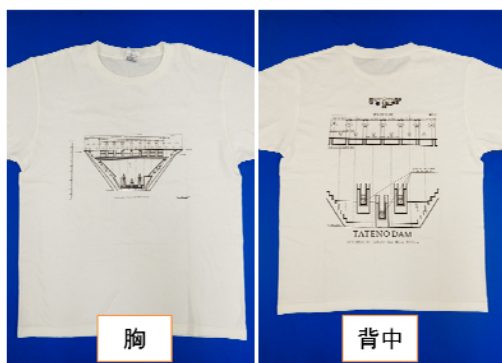


図-12 立野ダムTシャツ



図-13 立野ダム缶バッジと販売状況

事に広報室を訪れるインフラツアーや行政視察団体を対象に旧立野小で地元の方々による物販やそのための商品開発に向けた取り組みを実施中である。インフラツアーや行政視察団体は事前に来訪日時、人数を知ることができ、常に一定数以上の団体で来訪のため、地域にとって負担の少ない、効率的な取り組みが期待できる。

また、地域と連携し立野ダム貯水地上流端の鮎返りの滝付近の河川敷に足湯を創る取り組みや地域の若者と連携したダム関連イベントの取り組みも実施中である(図-14)。

#### 4. まとめ

2019年度から、ダム完成後を見据え、地域が主体となってインフラツアーを継続実施できる仕組み作り、ジオとインフラを組み合わせたツアールート開発を目指しての取り組みを進めた。結果として、ダムガイド体制の構築、あそ立野ダム広報室やその他関連商品等が新しく誕生し、これらをツアーに組み込んだ地元主導の初のインフラツアーが販売、催行され、ダムガイドを活用した民間ツアーも販売された。こうしたツアーは地域に経済性が生まれ、将来の自立性・持続性が期待できるツアーである。

今回の取り組みの中で、旅行会社との関係性が更に強まったことが連携性を高め、質の高いインフラツアーに繋がると考える。立野ダムの魅力と周辺の自然環境に加えて南阿蘇村の方々との協働で「いまだけ、ここだけ、あなただけ」のこれまでにない新たな形のインフラツアーを開発していきたい。



図-14 鮎返りの滝付近に創造中の足湯